

平成 29 年 度  
事 業 報 告 書

社会福祉法人 壬生老人ホーム

# 法人理念

## 人の和 地域の輪 ふれあいの場

### 職員（処遇）心得 10 則

#### 第一（処遇の基本）

処遇に当たっては、「してあげる」のではなく「させていただく」という謙虚な気持ちで利用者、ご家族の目線にたって業務に当たること。

#### 第二（明るい環境）

利用者と職員の間関係を良好に保ち、常に明るい職場環境を作るように努めること。

#### 第三（誠実な仕事）

処遇等を行うに当たっては、利用者・ご家族や第三者からの評価に値するサービスを提供できるよう努め、裏表なく誠実に取り組むこと。

#### 第四（責任の自覚と相互協力）

与えられた業務については、責任を持ってミスなく確実に行うことはもちろん、職員は相互に協力し合って 仕事を行うこと。

#### 第五（相手の立場に立つ）

サービスの提供に当たっては、常に相手の立場に立って行い、自分のペースや判断で行わないこと。

#### 第六（言葉と行動）

サービスの提供に当たっては、言葉遣いや行動・態度に注意し、ハッキリ明快かつ親切・丁寧に行うこと。

#### 第七（施設環境の美化）

事業所内の環境美化は、間接的な処遇であることを認識し、清掃・消毒などは確実に丁寧に行うこと。

#### 第八（誇りとイメージアップ）

職員としての誇りと自信を持って業務を行うと共に、外部の人との応接には特に気を配り、ホームの イメージアップに努めること。

#### 第九（意見の交換と研究）

サービスの質の向上のために、職員相互の意見交換を行うと共に、常に問題意識を持って研究に努めること。

#### 第十（私生活の自律）

急な勤務の変更が、利用者や他の職員に与える影響が大きいことを認識し、平素の生活リズムを乱さないように、私生活には 十分注意すること。

# 平成29年度 壬生老人ホーム 事業報告

## 目 次

### 第1 平成29年度の概況

### 第2 法人の状況

1. 役員の状況
2. 役員会の開催状況

### 第3 各事業結果

#### I. 特別養護老人ホーム

1. 主な統計（平成30年3月31日現在）
2. 生活援助等
3. 機能訓練
4. 保健、医療
5. 給食関係
6. 寄付
7. 助成金
8. 一般事務・施設管理・防災
9. 人事、労務関連
10. 待機状況及び入所判定委員会
11. 会議・委員会
12. 研修

#### II. ショートステイ

1. 利用実績
2. 担当者会議への参加
3. 特養空床の活用状況
4. 介護事故、忘れ物等
5. 苦情
6. 衛生管理

#### III. デイサービス（通所介護）

1. 安定した運営
2. サービス概要
3. サービス内容
4. 危機管理
5. 人材育成

#### IV. 居宅介護支援事業所（在宅介護支援センター）

1. 事業体制
3. 実績
4. 良質なサービスの提供のために

### 第4. 収 支 状 況

1. 単年度収支（積立金取崩金を除く）
2. 繰越額及び使途計画

### 第5. ま と め

## 第1 平成29年度の概況

- ・社会福祉法の改正に伴い、法の定めに従い役員を選任を行い 現理事長が互選により理事長に再任された。
- ・平成29年度の壬生老人ホーム各事業は、従来とおり利用者の基本的人権を尊重し、利用者が可能な限り自立した生活を継続できるように生活の支援を行い、おおむね例年通り介護サービスや支援を提供できた。
- ・職員の過失による死亡事故、福祉施設としての責任を問われる事態の発生はなかった。数名の方がインフルエンザに罹患されたが、十分な初期対応を行うことにより2週間程度で終息し重大な集団感染症事案には至らなかった。
- ・介護事業について
  - ・介護保険関連収入は、前年度比 約430万円(1.5%)の増収となった。
  - ・人件費は、正規職員2名の退職に伴い純人件費は約570万円(2.7%)減少したが、依然として人権比率は高止まりしている(居宅を含む人件費率は75.0%)
  - ・事業費は、約45万円減少した。
  - ・事務費は、直接雇用の調理員退職に伴い給食委託業務が約500万円と人材紹介手数料が年間270万円に上り前年度比約800万円の増加となり赤字の主な要因となっている。結果、介護保険事業における平成29年度資金収支差額は、約1250万円の赤字となり財政的に早急な改善策が求められる。
- ・職員の異動においては、平成29年度は全事業で10名の常勤・非常勤職員が入れ替わった。職員の確保は以前にも増して困難な状況となり、人材紹介業者へ職員1人宛数十万円を支払っての職員確保を行わなければならない状況が続いている。
- ・その他

京都市老人福祉施設協議会の事業に参加し以下の事業に職員を派遣した

- 1) 第三者評価 調査員・審査員
- 2) ハートメッセンジャー 2名
- 3) 京都府災害派遣福祉チーム(京都DWA T)

## 第2 法人の状況

1. 役員状況 理事6名 評議員7名 監事2名

2. 評議員会・役員会の開催状況

開催年月日	議 題
定時評議員会 平成29年6月17日 書面参加 三田玲子理事	1号議案 定款細則の審議 2号議案 次期理事の選任 3号議案 平成28年度事業報告・決算報告の承認 4号議案 役員報酬規定の審議 5号議案 定款変更の審議(※総合事業実施に伴う定款変更は不要とのことで後日申請を取下) その他報告事項 理事長の職務執行 有価証券の運用状況

第1回 理事会 平成29年5月27日 全員出席	1号議案 定款細則の審議 2号議案 平成28年度事業報告・決算報告の承認 監事監査報告 3号議案 次回 評議員会の日時及び場所、目的である事項の承認 その他報告事項 空調設備工事に伴う追加工事費の支出について 京都市主催役員研修の要旨報告 理事長の職務執行状況報告 有価証券の運用状況
第2回 理事会 平成29年6月17日 全員出席	1号議案 理事長の互選 2号議案 総合事業の実施に伴う定款変更（※後日取り下げ）
第3回 理事会 平成30年1月20日 全員出席	1号議案 平成29年度 補正予算の審議 2号議案 法改正に伴う 育児・介護休業規定の改定 3号議案 給与規定の一部改訂 4号議案 福祉車両の譲渡承認 5号議案 理事長の職務執行状況報告
第4回 理事会 平成30年3月17日 全員出席	1号議案 平成30年度 事業計画の審議 2号議案 平成30年度 当初予算の審議 3号議案 監査指導課からの指摘による会計処理の過誤修正承認 4号議案 理事長の職務執行状況の報告 5号議案 次回 評議員会の日時及び場所、目的である事項の承認

### 第3 各事業結果

#### I. 特別養護老人ホーム 定員50名

##### 1. 主な統計（平成30年3月31日現在）

###### ア. 利用者の状況

単位：才

年令分布	～70歳	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	計	平均年令	男	女	平均
29年度	1	3	23	21	1	49	29年度	80.3	89.4	88.1
28年度	0	4	23	21	1	49	28年度	82.9	88.8	87.9
27年度	1	3	21	20	2	47	27年度	82.4	89.0	88.0

年度末の入所者数は49名

平均年齢は近年88才代で推移している

入所期間	～1年未満	1～3以上 未満	3～5以上 未満	5～10以上 未満	10～15以上 未満	15～20以上 未満	20～25以上 未満	計	平均年々月
29年度	11	13	10	11	3	1		49	4.3
28年度	11	14	10	10	3	1	0	49	3.9
27年度	8	16	9	10	3	1	0	47	4.3

平均在所期間は、4年程度で推移している

###### イ. 入退所状況 近年になく多数の入退所があった。

入退所時年齢							在宅から	施設（病院）から
入所	計	65～69	70～79	80～89	90～99	100～		
男	4	1		2	1		2	2
女	8			4	4		6	2
計	12	1		6	5		8	4

退所	計	65～69	70～79	80～89	90～99	100～	死亡 (施設内)	死亡 (入院先)	長期 入院退所
男	5		1	2	2		2	2	1
女	7		1	2	4		5	1	1
計	12		2	4	6		7	3	2

### ウ. 介護度分布と利用日数

#### 介護度分布 年度末現在

	I	II	III	IV	V	平均
29年度			15	21	13	3.96
28年度		2	13	22	12	3.90
増減		-2	+2	-1	+1	+0.06
27年度		2	9	28	13	4.00

介護度別利用日数（年間延日数） ※利用率は昨年度より回復したが目標の95%は達成できなかった。

	I	II	III	IV	V	計	利用率
29年度		556	5,403	7,175	4,135	17,269	94.62%
28年度		973	4,498	7,282	4,471	17,224	94.14%
増減		-417	905	-107	-336	45	+0.48
27年度		457	3,578	7,192	6,033	17,260	94.32%

## 2. 生活援助等

### ア. 日常処遇とケアプラン

包括的自立支援プログラム（三団体版）を採用し、入所者個々人のニーズを具体的に把握し処遇計画を策定し、本人、家族に承諾を得て実施した。ケアプランが実行されているかを毎日チェック表にて点検し、原則として認定更新時にケアカンファレンスを開催し見直しを行なった。

### イ. 身体介護

昨年同様、寝たきり状態の利用者には、特に身体の清潔と褥瘡の防止に配慮し、入浴・清拭・体位交換あるいは離床活動に努めた。また、比較的ADLの高い利用者にあつては自立を促す方向での介護に努めた。

### ウ. 身体拘束の廃止に向けて

酸素療法のチューブを抜去される方に対し、ご家族の了承を得て一時的にミトンを着用頂いたケース（短期間で解除）があつたほか身体拘束事例はなかった。

拘束の種類	前年度から継続	拘束開始数	拘束廃止数	年度末件数
四点柵	0	0	0	0
Y字ベルト	0	0	0	0
ミトン	0	1	1	0

### エ. 介護事故等

介護事故予防と発生した事故の分析検討については、事故が発生した直後に各職種による検討会を行うとともに、「事故対策委員会」において統計分析を行った。

介護事故は、ヒヤリハット事例も含め内部報告に至った総数は517件で昨年度より300件以上も件増加したが、これは報告基準を軽度の「皮下出血」も含めたための増加であり全体としては下表の状況で、行政報告を伴う事例が1件発生（骨折）した。

事故に関しては軽微なものも含め、速やかにご家族に顛末を報告し全ての事故において家族の理解を得られた。今後も事故発生数の減少に努力を怠らないように努力する。

種 類	事故報告件数	行政報告件数	種 類	事故報告件数	行政報告件数
転 倒	55(+14)	なし	離 設	5(-2)	なし
前年度比14件増加した、入院通院加療を要し行政報告に至った事例はなかった。			全ての事例について、施設外へ出る前に気付くヒヤリハットの報告であり、警察への捜索を依頼しなければならないような事例はなかった。ただし、玄関前スロープや段差の解消が課題となっている。		
転 落	24(-17)	なし	異 食	1(-1)	なし
総数で17件減少したが、総数24件のうち14件は異常なしままたはヒヤリハットであり、その他は軽度の創傷程度であり入院加療を要し行政報告に至った事例はなかった。			認知症を有する利用者が、介護職員執務室内に入られ、職員の検食を摂食していた事例である。		
外 傷	100(-1)	なし	破損紛失	5(-4)	なし
件数は昨年度比-1件ほぼ変化なかった。軽度の縫合を伴う事故が1件あったが、入院加療を要し行政報告するには至らなかった。			義歯紛失・破損、眼鏡の破損、漂白剤の付着等の事故報告があった。いずれもご家族へ状況を説明し一部施設により損害を補填し了承いただいた。		
打撲（骨折）	190(+21)	3件	集団感染	0 (-1)	0 (-1)
報告数は、前年度比21件増であった。そのうち189件は軽い打撲や内出血が主であったが、3件骨折に至った事例があり行政報告を行った。			2018年2月末にかけて1名の利用者がインフルエンザに罹患された。個室隔離等の措置を行い数日後に軽快した。		
誤 薬	1(-6)	なし	その他	25(-27)	なし
うっかりミスによりご利用者を勘違いし配薬を取り違えた案件が1件前年度比-6件であった。すみやかに看護師・医師に経過を報告し重大な結果には至らなかった。			「ヒヤリハット」としてカウントされたものがほとんどである。件数の増加は職員の事故に対する意識の向上が要因として考えられる。		
合計				407(-111)	3件

#### オ. 苦情件数

種 類	直接の申出によるもの	公的機関から連絡があった件数
介 護 方 法	なし	なし
言 葉 遣 い	なし	なし
職 員 の 対 応	なし	なし
サ ー ビ ス 内 容	なし	なし

#### カ. 環境整備・衛生

- ・従来通り、1人あたり2回/月のリネン（シーツ）交換・月2回（及び随時）の居室清掃を行う他、布団乾燥機により随時寝具の高温殺菌を行い、衛生的な住環境を提供でき疥癬等の発生はなかった。
- ・理美容については、希望者に理美容業者により月1回の理美容を実費で受けていただいた。
- ・飲料水について、法定の受水槽・高架水槽の清掃を行い、検査機関による水質検査の結果も飲用に問題なかった。
- ・感染症予防研修を行うと共に、インフルエンザ等各種ウィルスの不活性化のため、オゾン発生機を全室で24時間稼働させて感染症の予防に務めたが、2018年2月下旬、利用者1名にインフルエンザ罹患が確認された。個室隔離を行い対応した。
- ・従来から、「施設特有の臭気は感じない」との感想（家族アンケート調査より）をいただいているが、トイレの清掃には重点をおき非常勤職員と業者委託による清掃を平行し臭気対策を講じた。



居室清掃



理容サービス



受水槽清掃



訪問売店

キ. 嗜好品の購入支援及び個別外出サービス、その他の教養娯楽

従来から行っている個人の希望を聴取してコンビニ業者に注文する「おかいもの希望聞き取り」や、コンビニ（セブンイレブン）の「出張売店」を利用した好みのおやつのお購入支援を行った。個別外出ニーズの聞き取り、個別外出を実施した。

前年度同様毎月の誕生会を実施した。特に6月は創立記念イベント、8月は夏祭り、9月家族会、1月新春の集いは「運動会」「流しそうめん」「花火大会」等を実施した他、施設生活のマンネリ化の防止に努めた。

広報誌「すこやかだより」については従来通り毎月発行ができた。

ク. 家族懇談会の開催

敬老月間の、9月に家族懇談会を開催し利用者ご家族から特養での日常の処遇状況についてのご意見をいただいた。ご家族からは日頃の介護に対する感謝の意見が寄せられた他、特筆すべき苦情・意見・要望はなかった。

ケ. 家族、利用者アンケートの実施

昨年に引き続き利用者、ご家族に対してアンケートを実施しサービスの向上に寄与した。  
(別添報告書参照)

コ. 機能訓練

従来とおり毎朝各階毎に「すこやか体操」を実施する他、嘱託の機能訓練指導員を雇用し月2回のリハビリ指導を行っている。

サ. 主な教養娯楽行事と施設行事

頻度	内 容	
毎日	・すこやか体操（老人体操）	
随時	・境内での外気浴	
火、金、日	・壬生寺僧侶による勤行	
第1、2日曜	・合同体操・喫茶「パンビ」（平均参加者20名／一部負担金あり）	
月1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セブンイレブンによる「出張販売」</li> <li>・誕生会（演芸、コーラスなど）</li> <li>・書道（外部指導者による）（参加者平均20名）</li> <li>・広報誌「すこやかだより」の発行</li> <li>・ボランティアによるマンドリンミニコンサート</li> </ul>	
4月	4/14 壬生寺境内での花見（約10名）	4/8 壬生寺花祭り見物（約10名）
	4/13 施設外行楽（京都市動物園2名）	4/26 誕生会（フラダンス）
	4/28 ロビー鯉のぼりの飾り付け制作（折り紙）	
5月	5/6 デイサービス慰問観覧（フラダンス 5名）	5/7 屋上での外気浴（10名）
	5/11 施設外行楽（府立植物園4名）	5/12 朱三民生児童委の慰問（各人ティッシュ受納）
	5/21 椰ノ宮神社春祭（露店）見物8名	5/29 誕生会（女声コーラス鑑賞）



6月	6/8 外出支援 三条商店街(3名) 6/26 創立記念パーティー (全員参加・ボランティアによるフラダンス鑑賞) 6/20 利用者健康診断 血液検査 6/23 カラオケ大会	6月随時 境内散策 6/18 協力歯科医院による全利用者口腔検診 6/28 保育園児との七夕飾り作り
7月	7/2 流しそうめん(35名) 7/7 参議院期日前投票 7/22 園児入浴時の飲み物配り (6名)	7/5 保育園児との七夕飾りの飾り付け 7/7 デイサービス慰問 (女声コーラス) 観覧 7/30 誕生会 ハワイアン演奏
8月	8/3 入所者レントゲン検査 8/20 かき氷会 (1F) 8/15 物故者法要 (壬生寺貫主による 約25名) 8/20 かき氷会 (1F) 8/29 境内での地藏盆見学 6名	8/6 裏千家抹茶慰問 (35名) 8/10 外出支援 イオンモール (2名) 8/13 かき氷会 (2F) 8/25 保育園地藏盆 ※じゅず廻し (4名) 8/28 納涼会 ※誕生会 (全員参加)
9月	9/4 花火大会(35名) 9/14 外出支援 おたべ作り体験 9/25 敬老家族会 ※誕生会 (マジックショー慰問)	9/6 園児の敬老ハガキ配達 (全員) 9/21 火災避難消火訓練
10月	10/4 保育園児の演劇観覧 10/8 ミニ運動会(デイホール 40名) 10/18 衆院選期日前投票 10/23 誕生会 (学生落語)	10/4 境内での満月鑑賞 10/12 外出支援 イオンモール (2名) 10/24 壬生寺保育園運動会観覧 (10名)
11月	11/4～随時 境内散策(外気浴) 11/11 デイサービス慰問鑑賞 (ハワイアン) 11/27 誕生会 (日舞・女声歌唱鑑賞)	11/10 デイサービス慰問鑑賞 (女声コーラス) 11/24 たこ焼きパーティー
12月	12/18 誕生会 (カラオケ大会) 12/27 もちつき大会(30名)	12/22 セブンイレブン大宮店によるサンタクロース慰問 12/31 年越しそば
1月	1/1 元旦本堂前記念撮影 1/25 新春のつどい (職員出し物)	1/14 初釜 (職員作法による) 1/31 創作アート体験
2月	2/3 豆まき 各フロアー 2/21 保育園児出張公演鑑賞	2/3 節分会露店散策 (5名) 2/28 ひな人形のロビー飾り付け
3月	3/5 外出支援 イオンモール (2名ほか実習生2名) 3/24 保育園卒園式 卒園記念贈呈 (3名) 3/27 誕生会 (金管5重奏の生演奏)	3/14 中京すこやかクラブ慰問 3/21 夜間想定避難訓練

## 各種行事の様子



4月ロビー花見堂 灌佛



4月 - 壬生寺花まつりの 見物



境内でのお花見



誕生会 津軽三味線



屋上テラスでの外気浴



フラダンス慰問



榊ノ宮祭礼露天見物



朱三民生委員さんの訪問



5月 口腔検診



6月 創立記念パーティー



7月 流しそうめん



8月 物故者法要



8月 保育園児の入浴



書道サークル



食後の口腔ケア



8月 抹茶慰問



8月 かき氷会



9月花火大会



9月 防災訓練



9月敬老家族とのつどい



10月 保育園児訪問



10月 保育園運動会観覧



10月ミニ運動会



個別外出 ショッピングセンター



12月 もちつき



1月ナツメロカラオケ大会



2月 節分露店見物

シ. ボランティア・寄贈 等 ※敬称略

サークル指導等	慰 問	寄 贈
上田勝巳 (書道月1回) 傾聴ボランティア (月2回) 安田長次郎 (マンドリン演奏 随時の土曜日) 山月愛好会 (玄関受付の生け花寄贈毎週)	各種演芸慰問 (月末誕生会) 壬生寺保育園 フラダンスサークル 女声コーラスサークル 上七軒 舞妓 林よしこ 三味線演奏 その他	中京老人クラブ・朱三民生委員 : 箱ティッシュ (利用者宛1箱) 朱常分店: バナナ10kg (年2回) 中央卸売市場: みかん、さけ その他: 使い捨て用古布地等

ボランティアの方々には書道等の指導をいただいた。

また「傾聴ボランティア」を従来通り通年受け入れ利用者の精神的な安定に寄与した。

3. 機能訓練

ADLの低下防止・諸機能の回復・維持のために、毎週1回(金曜日)レクリエーションリハビリを実施した。内容はペットボトルボーリング・ちぎり絵作りなどレクリエーションリハビリが主であった。利用者間での社交の場となり参加者には精神的な安定が見られた。リハビリについては、現状では、リクリエーション的なものしか実施できていない。理学療法士と契約し月2回介護

職員へリハビリ指導を受けている。



日常におけるリハビリ風景

## 4. 保健、医療

### ア. 定期検診

嘱託医師の診察や各種検査（1回／年の健康検査、適宜の尿・血液検査、経皮的動脈血酸素飽和度測定など）により、入所者健康状態の異常の早期発見に努めた。

また、嘱託医師の他、地域医療機関の協力を十分に得て、早期受診を心がけ、通院・入院などにおいて万全の体制で臨むことができた。

### イ. 定期健康検査

特養入所者全員を対象に、検尿・血液検査・心電図検査・胸部レントゲン（結核予防検査）（各1回／年 5月）を実施し、異常の早期発見や早期治療開始に結びつけるように尽力した。

### ウ. 褥瘡予防への取り組み

褥瘡予防に関しては、リスク対象者に対し「褥瘡予防マット」を使用し、介護職員による体位交換や看護職員による早期の治療処置の結果、重症化に至る事例は確認できなかった。

看護師の体制が定着せず「褥瘡委員会」の開催は低調であった。

### エ. 感染症対策

感染症については感染症対策委員会において検討、研修等を行った。

#### (1) 季節性・新型インフルエンザ予防対策

流行期を前に、特養入所者全員に季節性混合型インフルエンザ予防接種を行った。

2月下旬1名の利用者に感染が確認されたため、発症者の早期個室隔離を行い約2週間で収束を見た、入院者や重度者はなかった。

#### (2) 感染性胃腸炎対策

職員利用者への手指消毒等の徹底を周知した結果、感染者はなかった。

#### (3) その他の感染症

その他0-157や疥癬の流行はなかった。

## 5. 給食関係

栄養ケア計画に基づいて利用者の個別性に対応し、安全で衛生的な食事、経腸栄養法による栄養補給、栄養食事相談、多職種協働による栄養問題への取り組み等を実施した。

今後も継続して利用者の低栄養状態を予防し、改善していく必要がある。

### ア. 栄養量

平成29年度の一日当たり

	熱量 kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	ビタミン Cmg	添加塩分 g
平均	1455	61.1	36.6	635	85	7.0

概ね目標通り適正に食事提供をする事が出来た。特に個々の嗜好に合った食事や、それぞれの身体状況に適合した食事形態について配慮した。

#### イ. 給食費

平成29年度の1ヶ月の平均購入金額は281万1394円で1日1人当たりの食材料費と給食業務委託費は1804円（おやつを含）であった。

#### ウ. 食中毒予防

職員の健康診断・検便を始め、手洗い、うがいの励行、熱湯消毒、アルコール消毒等の基本に従い、又、食品の取り扱いや厨房の清掃、清潔保持に配慮し、衛生管理マニュアルを参考にし、食中毒予防に努めた。

#### エ. 厨房内の整理、整頓、清掃、害虫駆除等

害虫やネズミについては、給食職員により毎月一回の定期清掃を行うほか、年間2回駆除業者に駆除薬の散布を委託した。また調理室内にオゾン発生機を設置し夜間に相当濃度のオゾンを発生させることにより、ゴキブリ等の害虫は殆ど見られない。

#### オ. 嗜好調査

入所者の嗜好や現在の食事に対する不満等の状況を把握し、献立の作成、調理方法、その他食事の提供方法へフィードバックを行い、食事に対する入所者の満足度を向上させるために嗜好調査を実施した。

## 6. 寄付関係

#### イ. 現金（法人計）

分類	件数	金額	使途予定	備考
遺族	1件	1,000,000	未定	
家族	2件	20,000	未定	
役員	1件	5,000	未定	
利用者	1件	1,000,000	未定	
合計		2,025,000		

## 7. 助成金等

平成29年度は、助成金実績はなかった。

## 8. 一般事務・施設管理・防災

#### ア. 経理事務と文書保管

##### (1) 経理事務関係

一般事務処理については、預り金の取扱、その他金銭出納上の事故の絶無を期し複数職員によるチェック制を取って事務処理に当たった。

##### (2) 文書の保管

介護サービス計画、ケース記録を初め、寮母日誌、看護記録、給食記録、その他記録文書の適正な作成と分類・保管について配慮した。

##### (3) 利用者預り金関連

複数職員によるチェックを行い事故の無いよう厳正に管理し、退所者の遺留金品の家族等への引継についても事故無く引き継いだ。

(4) 前年度 監査指導により、新会計制度移行時における過誤が原因の4号基本金の取崩をおこなったが、監査指導課より経理仕訳に過誤があることの連絡を受け、理事会の承認を受け決

算において修正を行った。

イ. 施設整備・物品購入関係

(1) おもな施設設備の改修（単位：万円）

平成 29 年度は、高額の固定資産の取得や設備修繕はなかったが、老朽化した水道設備や特殊浴槽設備の改修修理に

事業	事業総額	助成額	自己負担額
水道配管改修	1 6 万円	なし	1 6 万円
介護職員執務室床改修	1 6 万円	なし	1 6 万円
洗面所水温調節装置交換	1 4 万円	なし	1 4 万円
特浴加圧ポンプ修理	2 2 万円	なし	2 2 万円



洗面所サーモスタット交換



特浴加圧ポンプ修理



寮母室床張り替え

ウ. 防災関連

- (1) 9 月 昼間想定 避難訓練を実施した。
- (2) 3 月 中京消防署の立ち会いのもと夜間想定訓練を行った。



9 月 昼間想定消防訓練



3 月 夜間想定火災訓練



消火器操作講習

エ. 職員研修

市老協 各部会へ参加し、ケアプラン等の知識、技術の向上を図った。  
外部・内部研修を計画し職員の知識の向上に努めた。

カ. 各種実習の受け入れ

実習実績

実習種別	養成機関
介護福祉士	花園大学・京都府立八幡高等学校
社会福祉士	京都医健・京都医療
高齢者施設見学実習	花園大学・龍谷大学

介護福祉士養成校からの実習依頼は近年減少している。

## 9. 人事、労務関連

- ・年度末、高齢を理由に 30 年勤続の配置医師が辞任され、新たに配置医師 1 名との嘱託契約を行った。
- ・「介護職員処遇改善加算」を充当し賃金改訂（昇給）を実施した。

・職員の異動状況

年 度	区 分	介護職員		看護職員		その他		計	
		採用	退職	採用	退職	採用	退職	採用	退職
29年度	常 勤 (派遣再掲)	1	2	3	2			4	4
	非常勤 (派遣再掲)	6(2)	4(1)	4(2)	3(1)			10(4)	7(2)
28年度	常 勤	1	0	1	1	0	1	2	1
	非常勤	3	1	0	1	0	0	3	2
27年度	常 勤	2	1	1	2	0	1	3	2
	非常勤	2	3	0	0	1	1	3	4

・職員福利厚生関係

(1) 京都市老人福祉施設協議会等主催各種行事へ参加

8月	納涼ビアガーデン (全日空ホテル) 参加
----	----------------------

(2) 職員親睦会関係

4月	職員親睦会
12月	壬生寺関係職員合同忘年会

## 10. 待機状況及び入所判定委員会

入所申待機者は、3月末現在で571名（男性142名 女性429名）である。

	I	II	III	IV	V	不詳	計
男	1	3	55	49	34		142
女	14	35	150	141	87	2	429
計	15	38	205	190	121	2	571

平成27年度より 法律が改正され原則要介護ⅠⅡの入所申込みができなくなった。要介護ⅠⅡの方で特例入所を受け付けた実績は無かった。

新規入所者の決定は、京都市老人福祉施設協議会において定められた「優先入所指針」に基づき毎月「入所判定委員会」を開催し検討しているが、職員の介護技術や医療体制から、申込時点において医療色の濃い申込者（IVH、鼻腔栄養、胃ろう、人工透析等）については、受入を見合わせている。

## 11. 会議・委員会・職員研修

従来通り、各事業の役職者が参加する事業を横断した「調整会議」（1回/月）を開催し、各事業の運営状況報告や周知事項の伝達を行うとともに、京都市老人福祉施設協議会施設長会での連絡事項や業界動向を伝達した。

また、フロア毎の介護職員会議、給食会議を実施したほか、一部開催が低調な委員会もあるが、法に定める各種委員会（感染症対策・事故対策・身体拘束・褥瘡・サービス向上）を定期的に開催し介護サービスの質の向上に努めた。

### 主な研修実績

#### 内部研修実施実績

日	項目	種別	内容	参加者
H29.7.31	医療	医療知識	在宅酸素療法について	Ns2名、介護:9名、相談員 計12名
H29.5.11	委員会	身体拘束	身体拘束の基礎(新人職員研修含む)	Ns2名、介護:5名 施設長、事務長、CM、相談員 計11名
H29.8.24	委員会	事故対策	事故実績の評価及び事件事例検討(GW)	Ns1名、介護:7名 施設長、CM、相談員 計11名

H29.8.24	委員会	褥瘡対策	褥瘡予防対策研修 講師: モルテン	Ns1名、介護:7名 施設長、CM、相談員 計11名
H29.11.8	委員会	感染症・食中毒	感染症(インフルエンザ) 食中毒(ノ)対策研修 講師:川口医師、協力:シオノギ製薬	
H29.12.3	委員会	身体拘束	疑似体験 半身麻痺、全盲	介護:5名 相談員 計6名
H29.12	医療	歯科	口腔ケア研修 斉藤医師	介護: 名 施設長、事務長、CM、計名
H30.2.1	救急	救急救命	普通救急救命講習	Ns4名、介護:2名 施設長、CM、事務員、相談員 計10名 デイ3名
H30.2.15	委員会	褥瘡対策	ポジショニングによる褥瘡対策	Ns1名、介護:6名 施設長、事務員、相談員 計10名 +実習生
H30.2.15	委員会	事故対策	介護現場のヒヤリハット 他	Ns1名、介護:6名 施設長、事務員、相談員 計10名 +実習生
H39.3.14	委員会	感染症・食中毒	ノロウイルスについて 3/16も実施	Ns2名、栄養士、介護:7名 施設長、CM、相談員、計13名
H29.7	防災		壬生寺合同防災訓練	
H30.3.21	防災	防災訓練	夜間想定防災訓練	

#### 外部研修参加実績

年月日	開催場所	職員	研修等内容
H29.5.24	京都府医師会館	島津	救急業務の現状と課題について
H29.6	ひとまち交流館	河本	市老協 ファーストステップ研修
H29.7.21	中京区社協	島津	中京区権利擁護ネットワーク 高齢者の消費者被害について
H29.8.9	修徳特養	渡部、島津	市老協個別ケア部会 施設見学、情報共有について
H29.11.28	うずまさ共生の郷	島津	市老協ショートステイ部会 在宅生活を支えるショートステイの役割
H29.11.27	ウイングス京都	上田久美子	京都市特定給食施設講習会 地域包括ケアシステム 在宅における栄養・食事ケアの取り組み 地域高齢者等の健康支援の推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン
H29.10.29	佛教大学	島津	佛教大学福祉教育開発センターシンポジウム 災害時の操車ルワーク
H29.12.29	京都社会福祉会館	島津	市老協相談部会 看取り支援について
H30.1.27	ウイングス京都	島津	市老協 リハビリ部会 「特養におけるリハビリテーションについて」講師:大川弥生
H30.2.9	京都社会福祉会館	島津	市老協相談部会 年間計画について
H30.2.23	ANA クラウンプラザホテル	島津	市老協 認定調査員研修 「傾聴の極意」
H30.3.19	ロームシアター	上田	京都市特定給食施設講習会 京都市の防災対策、H29年度災害時給食提供に関する実態調査結果



## Ⅱ. ショートステイ 4床 (特養との一体運営)

### 1. 利用実績

年度	介護度	要支援					計	日平均(人)	利用率	
	実人員									
29	実人員		1	12	11	11	5	3.20	106.6%	
	延日数		2	227	232	428	281			1170
28	実人員		0	14	12	9	5	4.05	135.3%	
	延日数		0	366	424	474	217			1481
増減	延日数		+2	-139	-192	-46	+64	-311	-0.85	+6.6%
27	実人員		4	12	7	10	5	3.86	128.7%	
	延日数		87	221	242	481	378			1,409

介護職員数とのバランスに配慮し定員は4名だが、空床利用を除き原則3名の受入に制限した。  
利用者の入退所希望時間に施設職員により送迎を実施し、送迎事故はなかった。

### 2. 担当者会議への参加

サービス事業所間の連携を重視し、利用者及び家族の要望に答えるべく、担当者会議へ積極的に参加した。そこで得た情報を短期入所生活介護計画に反映し、事業所内で共有した。また、利用者または家族同意を得た短期入所介護計画書は、担当する介護支援専門員へも送付した。

### 3. 特養空床の活用状況

希望される日程で予約が取れるよう調整するよう努力したが、空床待ちとなる申請者も多数おられ、特養ベッドの空床を利用者や家族の同意を得た上で、積極的に紹介するよう努めた。

ショートステイ利用者への介護支援が介護職員の過重な負担とならないように配慮した。

### 4. 介護事故、忘れ物等

行政報告に至った重大事故は無かったが、内服薬のセットした時の確認不足による朝夕処方薬の誤配が1件あった。すみやかに家族へ連絡報告し、大事には至らなかった。衣類等の持参品は紛失、間違えが無いよう個別に洗濯する等の対策を取っているが、月間2、3件程度の返却忘れがある。直ぐに返却するよう対応し苦情に至った事例はなかった。今後、業務の効率化と併行し、物品の返却忘れを無くすべく対策が必要である。

### 5. 苦情

大きなトラブルに至るような苦情は見られなかった。送迎時の家族付添も減っており、事前の様子聴き取りと退所時のお手紙「利用中のご様子」で情報の共有を行い、苦情や事故につながらないように注意した。担当介護支援専門員へも、利用毎に様子報告を行った。

種 類	直接の申出によるもの	公的機関から連絡があった件数
介 護 方 法		
言 葉 遣 い		
職 員 の 対 応		
サービス内容 (居住環境)	1件 退所時の衣類の着用在ぞんざい	
その他		

### 6. 衛生管理

シーツ、布団カバー等のリネン類は入所の都度新しいものを使用していただき、寝具も1退所毎に乾燥機により熱風乾燥させ、衛生的な滞在環境を提供した。

### Ⅲ. デイサービス（通所介護）

#### 1. 安定した運営

【重点課題】新規利用者の獲得。収支の安定をめざす。

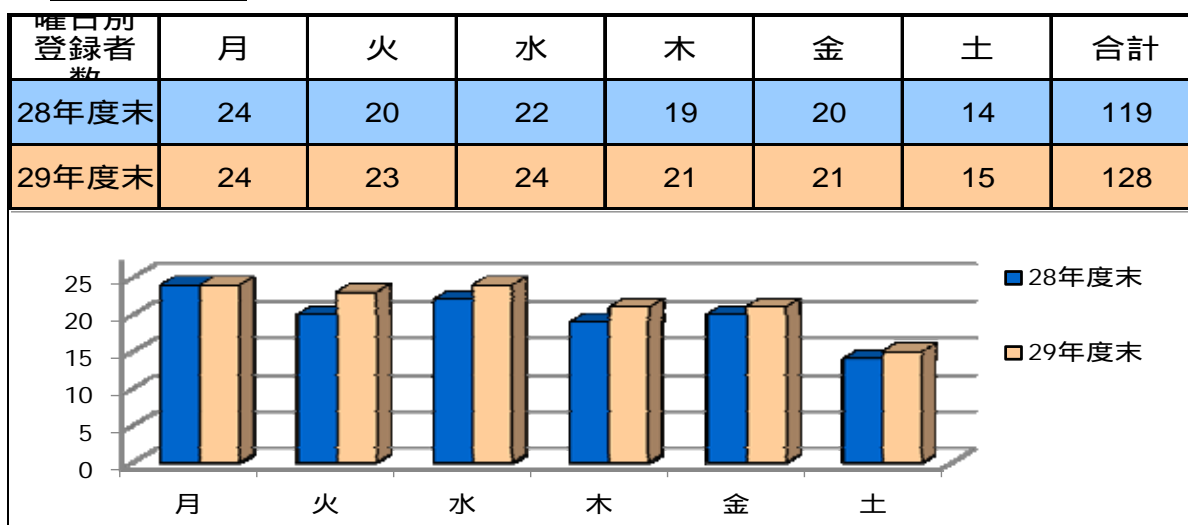
年休取得率など労働環境を維持し、職員の定着を図る。

加算が算定できる体制を整える。

#### ア. 収支ほか運営概要

- ・平成29年度は加算（中重度・個別機能訓練）の算定を行えなかったため昨年度と比較し、約500万円の減収となった。
- ・減収を踏まえた職員体制を見直し、平成30年度には中重度ケア加算の取得を目指す。
- ・平成30年度は中重度加算算定と利用者数を増やし赤字幅の縮小を目指す。

#### ・ 曜日別登録者数



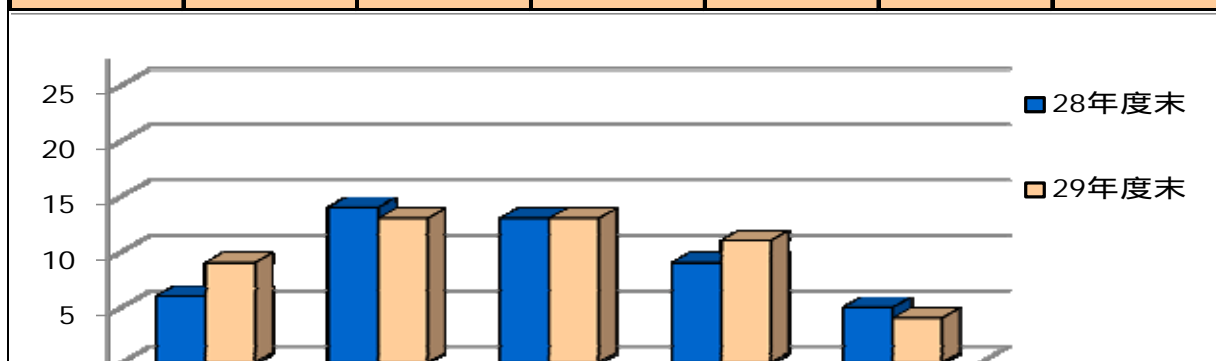
#### 介護度別利用者人数（年間延べ人数）

利用者数	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計	日平均
28年度	18	261	643	1721	1603	460	501	5207	17.1
29年度	0	188	906	1525	1725	349	546	5239	17.2

日平均の利用者数は、ほぼ前年度と同様であった

#### 利用期間別 利用者人数

利用期間 年数	～1未満	1～3未満	3～5未満	5～10未満	10以上	合計
28年度末	6	14	13	9	5	47
29年度末	9	13	13	11	4	50



#### 介護度別利用回数別 利用者人数

利用者数	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
週1回			3	3	4		1	11
週2回		1	5	5	3	1	2	17
週3回			2	3	4	2	1	12
週4回			1			1	1	3
週5回			1	2	1			4
週6回				1	2			3
合計	0	1	12	14	14	4	5	50

#### イ. 職員体制

- ・生活相談員の退職、交代があった。介護職員は非常勤職員の勤務日数を調整し、体制の安定が図れた。
- ・看護職員は非常勤1名が退職、常勤1名退職予定。出勤体制も不安定なため早急に補充を行う。
- ・有給休暇消化率は概ね70%以上を達成できた。

職 種		相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	そ の 他
常 勤	実人員	1	2	1	0
非常勤	実人員	2	7	4	4
	常勤換算	1	4.2	2.8	1.8
実人員合計		3	9	5	4

		採用	退職	採用	退職	採用	退職	採用	退職
28年度	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤	0	2	2	0	1	0	0	0

#### ウ. 施設整備・物品購入

- ・送迎車にドライブレコーダーを設置した。
- ・トイレカーテンの変更を検討中。

#### エ. 運営体制

- ・ 職員の年齢・能力などを踏まえた雇用対策と勤務調整を行った。
- ・ 各会議において課題検討や企画検討を行った。
- ・ 他部署との会議には毎月参加した。法人を通じての課題や災害時対応など他部署と連携しての対策は大きな進展なく、検討を継続している。

#### オ. 外部評価・苦情対応

- ・ 年に2回の自主点検に加え、情報の公表を行った。
- ・ 大きな苦情はないが意見や要望については対応を行った。

## 2. サービス概要

**【重点課題】** 重度利用者を積極的に受け入れ、地域の老人福祉の拠点として信頼されるセンターづくりを目指す。

#### ア. 特色

- ・ 重度利用者の受入を継続して行っている。
- ・ 利用者ニーズにあわせ短時間利用の受入を積極的に実施した。

#### イ. サービス窓口・広報

- ・ 新規相談や問い合わせに対しては見学や体験利用などを提供した。
- ・ 毎月広報「みぶだより」の発行を継続した。

#### ウ. 倫理

- ・ 倫理・マナー・尊厳・プライバシー保護の研修を行った。

#### エ. 関連機関・地域との連携

- ・ 中京区通所連絡会議、地域ケア会議などに参加し情報収集を行った。
- ・ 中学の職業体験（チャレンジ体験）の生徒を受け入れ、ボランティアの新規受入を行った。
- ・ ボランティアにはボランティア保険加入費用の支給と年2回お礼をした。また一日を通じで活動する場合は昼食を提供している。

## 3. サービス内容

**【重点課題】** 自立支援・生活機能向上をめざし、プライバシーに配慮した介護サービスを行う。  
多職種が共同して、より個別性のある、ケアプラン作成をめざす。  
敬語の徹底など接遇マナーを向上させる。

#### ア. ケアプラン

- ・ 月評価実施、モニタリングは習熟度に応じ実施できた。
- ・ サービス担当者会議は8割以上の参加が継続できた。

#### イ. 基本介護

- ・ **【入浴サービス】** 特別養護老人ホームとの業務調整を行い、(土)以外の曜日に特浴サービスの提供を実施した。
- ・ **【食事サービス】** 自宅での水分摂取支援に向けお茶の持ち帰りサービスを継続した。利用者のニーズに応じて、持参した食事や水分の提供も行った。栄養不良利用者には栄養改善に向けて注入なども実施した。
- ・ **【排泄介助】** プライバシー配慮の環境作りは推進できていない。ご家族の負担軽減となるよう、排便コントロールの助言・支援を継続した。
- ・ **【送迎サービス】** 利用者個々の状況に応じ送迎調整を行った。
- ・ **【健康チェック】** 在宅での内服や受診促しなど健康管理の自立支援を継続した。医療機関や他サー

ビスと連携して体調管理の支援を行なった。

ウ. 活動プログラム（機能訓練・レクリエーション）

- ・ 個々の状態に応じた機能訓練の提供を行なった。
- ・ 利用者やボランティアが中心となつてのサークル活動が継続できた。
- ・ 外出を含む季節行事やボランティアによる企画行事が実施できた。

**平成 28 年度行事・活動プログラム**

	内容	ボランティア企画・地域交流
通常	グループ活動 すこやかグループ うた体操グループ 創作グループ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 俳句サークル</li> <li>・ 書道サークル</li> <li>・ 創作グループ</li> <li>・ 手芸サークル</li> </ul> メロディ倶楽部 お誕生会・カレンダー作り その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園芸活動</li> <li>・ 折り紙創作</li> </ul>	俳句指導（松田基弘氏） 書道指導（上田勝巳氏） 創作指導（松岡晴子氏） 手芸指導（小山澄子氏） 安田長次朗氏  園芸指導（松岡晴子氏） 折り紙指導（松岡晴子氏・畑久子氏）
4月	お花見ドライブ	
5月	春の鑑賞会	
6月	創立記念祝賀会	
7月	七夕コーラス	
8月	盆踊り	盆踊り（藤鳴会）
9月	避難訓練 敬老祝賀会	
10月	運動会	
11月	秋の観賞会	
12月	紅葉狩りドライブ 年忘れ紅白歌合戦	
1月	新年祝賀会	
2月		
3月	シェイクアウト訓練	

エ. その他のサービス

- ・ 従来とおり、業者による理容サービスを行い外出困難な利用者の理容ニーズに対応した。
- ・ 利用者家族による利用時の見学などは参加者がなかった。

**4. 危機管理**

**【重点課題】 災害時対策と緊急時対応の見直しをすすめる。**

ア. 災害時対策

- ・ 職員の災害伝言ダイヤルの研修、利用者参加の避難訓練を行った。
- ・ 大規模災害時の対策強化は大きな進展はできていない。

イ. 感染症対策

- ・ 感染予防強化期間の前後に利用者へお知らせを配布、感染予防マニュアルにそつた対応を実施した。

ウ. 事故対策

- ・全職員でのインシデント（ヒヤリハット）の検討と記録作成を継続できた。
- ・転倒予防アセスメントを全ケース実施した。5. 人材育成

5. 人材育成

【重点課題】人間関係維持とチームワークづくり

- ・業務の習熟度や個別の課題に応じて、研修参加の機会を設けることができた。

ア. 個別研修

研修テーマ	参加者
デイサービス生活相談員 その役割と必須業務	栗林 知希 田村 靖代
利用者の声を聞く	佐藤 一恵
安心運転セミナー 危険予知確認	安田 長次郎
キャリアパス 初任者コース	佐藤 一恵
福祉職員人権研修	佐藤 一恵
平成30年度 経験交流会	田村 靖代

イ. 内部研修

研修テーマ	参加者
理念・法令、人権・尊厳、感染予防、 非難訓練・防災、緊急対応	介護、看護職員など

ア. 実習生の受け入れ

- ・実習指導者2名が中心となり実習指導にあたった。

実習種別	人数	養成機関
介護福祉士	4	花園大学2名 八幡高校2名
介護等体験	8	京都府社会福祉協議会 前4名 後4名
チャレンジ体験	2	朱雀中学校2名
ユースアクション	0	京都市中京区社会福祉協議会
合計	10	

#### IV. 居宅介護支援事業所（在宅介護支援センター）

##### 1. 目標毎の達成状況

事業所として「いつでも何でも相談できる事業所」となり、地域の中核事業所としての役割を担う」を目標に、活動を行った。

大目標	I 「何でも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) 質の高い居宅介護支援事業所として、事業所加算Ⅲを維持する
行動目標	①主任介護支援専門員を配置する

29年度も引き続き、特定事業所加算の安定運営を目指した。

##### 職員配置

- ・管理職（特養施設長兼務） 1名
- ・主任介護支援専門員（在宅介護支援センター兼務） 1名
- ・介護支援専門員（居宅介護支援事業所専任） 2名
- ・事務員（在宅介護支援センター兼務） 1名

業務内容としては、介護支援専門員は利用者に対し個別相談を行ない、ケアマネジメント業務に従事した。

大目標	I 「何でも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) 質の高い居宅介護支援事業所として、事業所加算Ⅲを維持する
行動目標	②定期的に事業所会議を開催し、サービス提供にあたっての留意事項に掛かる伝達等を行う

毎週金曜日9：00～を事業所会議の時間と定め、定期的に事業所会議を開催した。

- ・第1週 当該月の計画（ケアプラン）変更予定
- ・第2週 災害時・緊急時対策 他
- ・第3週 年間研修計画に基づく、事業所内研修
- ・第4週 （大の月は、顕官研修計画に基づく事業所内研修）
- ・第5週（最終週） 全利用者の状況確認 他

		会議・研修内容
4月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について 災害時想定訓練を行って、緊急連絡カードの変更について
	3週	マニュアル点検
	4週	全利用者の状況確認
5月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	認知症ケアについて
	4週	全利用者の状況確認
6月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	法令遵守について
	4週	ケアプラン点検
	5週	全利用者の状況確認
7月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など）

		・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	権利擁護について
	4週	全利用者の状況確認
8月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	利用者処遇について
	4週	全利用者の状況確認
9月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	精神疾患について
	4週	ケアプラン点検
	5週	全利用者の状況確認
10月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	上半期モニタリング
	4週	全利用者の状況確認
11月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	マニュアル見直しについて
	4週	全利用者の状況確認
12月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	倫理・プライバシーについて
	4週	全利用者の状況確認
1月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	第三者評価を受けて
	4週	全利用者の状況確認
2月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	事業計画について・見直し
	4週	全利用者の状況確認
3月	1週	当該月の計画（ケアプラン）変更予定者の報告（更新・区変・新規・計画変更など） ・複数担当制確認
	2週	災害時緊急連絡先名簿点検・緊急時対策について
	3週	災害時想定訓練
	4週	ケアプラン点検
	5週	全利用者の状況確認



大目標	I「何でも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) 質の高い居宅介護支援事業所として、事業所加算Ⅲを維持する
行動目標	③介護支援専門員個々の目標に即した、研修計画を立案し、研修を受講する事により、スキルアップを図る

介護支援専門員毎に年間研修計画を策定し、それに基づいた研修受講を行った。業務都合にて一部参加できない研修もあったが、概ね目標は達成できた。

また、研修講師として参画する事で、地域への貢献も果たした。

(外部研修)

開催日	研修種別	研修内容
4月13日	本能地域包括支援センター圏域ケアマネジャー勉強会	「基礎から学ぶアセスメント」 壬生老人ホーム居宅介護支援事業所 安田 晴子
4月21日	中京居宅介護・予防支援事業者連絡会勉強会	「悪質商法の手口と対処法」 京都市消費生活総合センター 消費生活専門相談員 門野 晶氏
5月15日	市老協居宅介護支援部会主任介護支援専門員対象研修	「ケアマネジメントにおけるアセスメントについて」 壬生老人ホーム居宅介護支援事業所 安田 晴子
5月19日	中京居宅介護・予防支援事業者連絡会勉強会	「大規模災害に備えて」 壬生老人ホーム居宅介護支援事業所 南 哲也
5月31日	H29年度第1回地域包括ケア研修会	「京都府の地域包括ケアシステム実現への取り組み」 京都府健康福祉部高齢者支援課長 片岡 美佳氏 「京都市版地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み」 京都市保健福祉局健康長寿のまち京都推進室 健康長寿企画課担当課長 伊井 真弓氏 実践報告「住み慣れた地域での生活を支える現場からの発信」
6月3日	京都府災害派遣福祉チーム養成研修	第1回「平成29年度概論」 華頂短期大学 教授 武田 康晴氏
6月16日	中京居宅介護・予防支援事業者連絡会勉強会	「地域包括ケア 暮らしを支えるケアマネジャーの役割」～孤立させないまちづくり～ 仏教大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授 新井 康友氏
7月12日	市老協居宅介護支援部会全体研修	「課題整理総括表を活用し、これで誰でもケアマネジメントの思考過程を整理できる！」 嵯峨野病院居宅介護支援事業所 川添 チエミ氏
7月24日	中京区主任介護支援専門員研修会	「課題整理総括表の活用について（基礎を学ぶ）」 嵯峨野病院居宅介護支援事業所 川添 チエミ氏
7月28日	京都市高次脳機能障害者支援センター 高次脳機能障害支援者研修	「支援者のためのステップアップ研修」(1) 京都市高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター
8月25日	京都市高次脳機能障害者支援センター 高次脳機能障害支援者研修	「支援者のためのステップアップ研修」(2) 京都市高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター
9月3日	平成29年度第2回京都府災害派遣福祉チーム養成研修	「京都府総合防災訓練 避難所での実務研修」 京都府健康福祉部介護・地域福祉課 副課長 宮村 匡彦氏 華頂短期大学 武田 康晴 教授 岩手県災害福祉広域支援推進機構事務局 加藤 良太氏

9月22日	中京居宅介護・予防支援事業者連絡会勉強会	接遇研修「親切と和～心からのサービス～」 京都ホテルオークラ 宿泊部接遇課課長代理 松尾 領子氏
9月22日	京都市高次脳機能障害者支援センター 高次脳機能障害支援者研修	「支援者のためのステップアップ研修」(3) 京都市高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター
10月17日	中京区主任介護支援専門員研修会	「中京区での地域との会議のツボ」 ～こうすればうまくいく!～ 大谷大学 文学部社会福祉学科 教授 志藤 修史氏
11月1日	平成29年第5回高齢者虐待防止のための研修	「養護者に精神障害などが疑われる際の支援について」 精神科医 椿 恒雄氏 (つばき医院院長)
11月17日	中京居宅介護・予防支援事業者連絡会勉強会	「代宅療養における医療機器の種類を知ろう」 ～日常生活用具の給付などの紹介～ 京都福祉介護用品協会 代表理事 中川 剛志氏 フランスベッド(株) 医療機器課 加藤 和義氏
11月22日	市老協居宅介護支援部会全体研修	「事例の見立てを考える⑦なぜ物取られ妄想が起きているか?事例の家庭背景を考え家族アプローチの方法を考えるー現象の仮説を複数考えるー」 花園大学 社会福祉学科 福富 昌城 教授
11月30日	京都市域京都府地域リハビリテーション支援センター平成29年度第1回事例検討会	「ケアマネジャーの就労支援」 壬生老人ホーム 河村 史子 (事例発表)
12月13日	市老協居宅介護支援部会主任介護支援専門員対象研修	「主任介護支援専門員として気づきを促す質問力」 嵯峨野病院居宅介護支援事業所 川添 チエミ氏
1月19日	中京居宅介護・予防支援事業者連絡会勉強会	「他職種との意見交換」～スムーズな連携を図るために～ 中京区居宅・通所・訪問連絡会幹事
1月26日	中京区主任介護支援専門員研修会	「地域の接点を考える～8050問題の事例～」 大谷大学 文学部社会学科 志藤 修史 教授
1月26日	京都市高次脳機能障害者支援センター 高次脳機能障害支援者研修	「支援者のためのステップアップ研修」(4) 京都市高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター
2月13日	京都府災害派遣福祉チーム養成研修	第3回「平成29年度総括」 華頂短期大学 教授 武田 康晴氏 ほか
2月16日	中京居宅介護・予防支援事業者連絡会勉強会	「歯ッピー・スマイル京都」 ～生涯を通じた歯と口の健康づくり～ 京都市 京都推進室健康長寿企画課 課長 小西 直人氏
2月23日	京都市高次脳機能障害者支援センター 高次脳機能障害支援者研修	「支援者のためのステップアップ研修」(4) 京都市高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター
2月28日	第26回京都府高次脳機能障害(京都市域)支援ネットワーク会議	「意外と簡単?!高次脳機能障害」 京都大学精神科神経科 上田 敬太 教授
3月19日	高齢サポート朱雀圏域会議研修	「認知症と精神疾患について」 近藤医院 近藤 久勝 医師

大目標	I 「何でも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) 質の高い居宅介護支援事業所として、事業所加算Ⅲを維持する
行動目標	④地域包括支援センターからの、困難事例等の支援依頼を受け入れる体制を整える

地域包括支援センターからの支援困難事例等の依頼は、基本的に全て受け入れるように体制作りは行っているが、その時の業務の都合等により（即日同行依頼があり、既に訪問予定が一杯で業務調整がつかなかった等）お断りしたケースがあった。

大目標	I 「何でも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) 質の高い居宅介護支援事業所として、事業所加算Ⅲを維持する
行動目標	⑤運営基準減算・特定事業所集中減算の適応を受けない様に留意する
	⑥居宅介護支援の利用者数の定員を超えないように支援する
	⑦予防支援委託・ケアマネジメントA委託を受託する

運営基準減算・特定事業所集中減算の適応は無い。

居宅介護支援利用者数の定員超過は無い。

予防支援委託・ケアマネジメントA委託は、委託基準に則り受託している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (延べ件 数)	平均
給付管理件数	90	92	91	92	96	96	95	91	93	96	96	97	1125	93.8
予防委託件数	16	16	15	12	12	11	9	9	9	9	9	9	135	11.3
ケアマネジメントA委託件数	1	2	2	4	6	5	6	6	5	4	4	4	49	4.1
給付管理数合計(※1)	107	110	108	108	114	112	110	106	107	109	109	110	1309	109.1
利用者数(※2)	98	100	99	98	102	102	100	96	98	101	101	102	1197	99.8
登録者数	135	133	134	131	128	129	125	123	126	126	131	126	1547	128.9
新規件数	0	2	1	0	2	1	0	1	3	0	2	0	12	1.0
終了件数	3	3	2	6	2	0	6	2	1	2	2	5	34	2.8
初回加算数	5	6	8	5	4	3	2	4	6	3	4	3	53	4.4
入院時医療連携件数	6	6	6	2	3	5	3	4	7	5	2	10	59	4.9
退院時医療連携件数	4	4	5	4	6	3	1	3	1	6	0	5	42	3.5
更新申請件数	7	11	6	8	2	6	2	3	4	11	2	7	69	5.8
区分変更申請件数	2	1	1	4	5	1	4	2	1	3	3	2	29	2.4
訪問調査件数	6	14	8	10	4	8	7	6	4	9	6	10	92	7.7
住宅改修申請件数	4	7	5	6	1	2	2	3	4	2	3	1	40	3.3
福祉用具購入申請件数	0	0	2	9	0	1	2	1	0	1	0	1	17	1.4
サービス担当者会議開催件数	18	23	21	19	24	14	16	23	20	17	22	20	237	19.8
時間外臨時対応件数	3	4	2	0	2	2	0	2	2	0	2	0	19	1.6

※1 給付管理数合計＝(要介護)給付管理件数＋(要支援)予防委託件数＋(要支援)ケアマネジメントA委託件数

※2 利用者数 ＝(要介護)給付管理件数＋(要支援)予防委託件数×0.5(小数点以下繰り上げ)

主任介護支援専門員が担当ケース数を把握し、介護給付＋予防委託×0.5＝35件を目安に管理している。月100件を超える時があり、「いつでも」利用できる状況とは言い難い。

大目標	I 「何でも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) 質の高い居宅介護支援事業所として、事業所加算Ⅲを維持する
行動目標	⑧介護支援専門員実務者研修等の実習生を受け入れ、後進の育成に協力する

平成 29 年度介護支援専門員実務研修の実習生を 3 名受け入れた。平成 30 年 3 月～5 月で実習。  
主任介護支援専門員を 2 名配置し、実習受入体制は整えている。  
社会福祉士実習生は、年間を通じて受け入れを行っている。

大目標	Ⅱ「いつでも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) いつでも相談できる体制を維持する
行動目標	①24 時間連絡体制の確保を維持する

併設特養事務所協力の下、24 時間電話受付対応が実現できている。事業所に電話連絡があった際は、担当ケアマネジャー携帯へ電話を受けた者が連絡を行っている。

また、緊急連絡順位を決め、併設特養事務所へ伝えている。

複数担当制を導入しており、緊急時に主担当ケアマネジャーと連絡が取れない時は、副担当ケアマネジャーが対応できるように体制作りをしている。

複数担当制を導入する事で、担当ケアマネジャーが対応困難な時も、副担当ケアマネジャーで対応し、いつでも相談できる体制作りが出来ている。

大目標	Ⅱ「いつでも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) いつでも相談できる体制を維持する
行動目標	②通常提供実施範囲の見直しを行う

現在、中京区 4 包括支援センター（御池・本能・朱雀・西ノ京）・下京区 1 包括支援センター（島原）・右京区 1 包括支援センター（西院）と連携をしており、中京区全般・下京区一部・右京区一部に利用者が点在している。

広範囲に利用者が点在する事で、業務効率は悪くなっており、通常提供実施範囲を超えて提供している利用者も複数名居られる。しかし、6 包括支援センターと連携を行う事で、途切れなく新規依頼があり、利用者数の安定化が図れている。

大目標	Ⅱ「いつでも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) いつでも相談できる体制を維持する
行動目標	③介護支援専門員の複数担当制を維持し、事業所として利用者の相談支援に当たれるように整備する

複数担当制は維持。全ての利用者において、毎月副担当を決定し、サービス担当者会議やモニタリングの機会に同行訪問をしている。

全ての利用者に対し複数担当とする事で、緊急時の対応が複数で出来るように体制作りをしている。

大目標	Ⅱ「いつでも相談できる事業所」を実現する
中目標	1) いつでも相談できる体制を維持する
行動目標	④災害時対策を充実させ、災害時でも対応できる事業所を構築する

災害時・緊急時対策として、毎月第 2 金曜日に全ての利用者の状況を確認。災害時安否確認リストにて、安否確認の優先順位を決定している。

利用者に対し、緊急時連絡カードを配布し、緊急連絡先の確認を行う事にし、毎年 9 月を点検月としていたが、今年は取り組みが充分に行えなかった。

毎年、後期（3 月 15 日）に災害時想定訓練を計画・実施している。今年度は、日中のあえてケアマネジャーが訪問などでバラバラに活動をしている時間帯を想定し、緊急連絡などの訓練を行った。

大目標	Ⅲ地域に貢献できる事業所となる
中目標	1) 地域と連携の摂れる事業所となる
行動目標	①地域包括支援センターと連携を図り、地域との連携を図れるよう体制作りを行う

日常業務では随時地域包括支援センターと連携を行っている。

担当圏域の本能包括支援センター主催地域ケア会議への参加も行った。

本能包括支援センターから、勉強会の講師依頼があり、研修講師として参画した。

毎月の予防委託実績報告の際に、各地域包括支援センターを訪問し、当事業所の空き情報等を情報提供し、いつでも連携できる体制を取っている。地域包括支援センターからの困難事例（虐待・接触困難・ターミナルなど）の受け入れを行った。随時相談を行える体制を整えている。

大目標	Ⅲ地域に貢献できる事業所となる
中目標	1) 地域と連携の摂れる事業所となる
行動目標	②中京居宅介護・予防支援事業者連絡会の幹事として参画し、地域の介護保険サービス事業所の連携を構築する

中京区居宅介護予防事業所連絡会の幹事長として、同連絡会に参画。

4月12日	合同幹事会	29年度第1回合同幹事会 ①新幹事紹介、平成28年度活動報告 ②第1回合同勉強会打合せ
4月21日	連絡会勉強会	「悪質商法の手口と対処法」
5月19日	連絡会勉強会	「大規模災害に備えて」～壬生老人ホームでの取り組み～
6月16日	連絡会勉強会	「地域包括ケア 暮らしを支えるケアマネジャーの役割」
7月19日	合同幹事会	29年度第2回合同幹事会 各連絡会報告・合同勉強会打合せ
7月24日	連絡会勉強会	「課題整理総括表の活用について（基礎を学ぶ）」
8月10日	納涼会	合同納涼会
9月22日	合同勉強会	接遇研修「親切と和～心からのサービス～」
10月18日	合同幹事会	29年度第3回合同幹事会 各連絡会報告・第2回合同勉強会打合せ
10月		*衆議院解散総選挙の影響にて、連絡会は中止。
11月17日	連絡会勉強会	「在宅医療における医療機器の種類を知ろう」
12月1日	忘年会	合同忘年会
1月19日	合同勉強会	「他職種との意見交換」
2月16日	連絡会勉強会	「歯ッピー・スマイル京都」～生涯を通じた口の健康づくり～
2月21日	合同幹事会	29年度第4回合同幹事会
3月16日	総会	平成29年度 総会

大目標	Ⅲ地域に貢献できる事業所となる
中目標	1) 地域と連携の摂れる事業所となる
行動目標	③中京区在宅医療連携推進実務担当者会議・難病ワーキンググループ会議・中京区認知症連携の会などに実務担当者として参画し、医療を含めた他職種連携の関係を構築する

中京居宅介護・予防支援事業者連絡会幹事長として、各方面の活動に参画できている。ただし、連携依頼が多く多岐にわたっているため、活動全てに対して参画できていないため、ある一定の整理等は今後必要となるかも知れない。

- ・中京区在宅医療連携推進実務担当者会議に、中京居宅介護・予防支援事業者連絡会幹事長として参画。
- ・難病ワーキンググループ会議に、中京居宅介護・予防支援事業者連絡会幹事長として参画。
- ・中京区認知症連携の会に、中京居宅介護・予防支援事業者連絡会幹事長として参画。
- ・中京区主任介護支援専門員研修会に、中京居宅介護・予防支援事業者連絡会幹事長として参画。

大目標	Ⅲ地域に貢献できる事業所となる
中目標	1) 地域と連携の摂れる事業所となる
行動目標	④京都市老人福祉施設協議会居宅介護支援部会に運営委員として参画し、京都市内の介護支援専門員の横の繋がりを作り、お互いに資質向上を図れるよう事業運営を行う

京都市老人福祉施設協議会居宅介護支援部会運営委員長として、同部会に参画している。京都市単位で横の繋がりを作る活動を行えている上、ケアマネジャーのスキルアップの為の研修を企画運営できている。また、2ヶ月に1回ケアプラン勉強会を開催し、アセスメントの手法勉強するを講師として参画している。

4月25日	ケアプラン勉強会	事例「うつ病があり、精神的に不安定になりやすいケース」
4月25日	定例部会	第三者評価報告 情報交換会「実務研修実習を終えて、意見交換、他」
5月15日	運営委員会	前回部会の振り返り、各研修について、次回部会のテーマについて、他
5月15日	主任介護支援専門員 対象研修	「ケアマネジメントにおけるアセスメントについて」
6月27日	ケアプラン勉強会	事例「すぐにイライラし怒鳴ってしまい、サービス利用が続かない利用者への支援」
6月27日	定例部会	第三者評価報告 情報交換会「集団指導を終えて、新総合事業が始まって、意見交換、他」
7月12日	運営委員会	前回部会の振り返り、各研修会について、次回部会のテーマについて、名簿作成について、他
7月12日	全体研修	全体研修「課題整理総括表を活用し、これで誰でもケアマネジメントの思考過程を整理できる！」
7月12日	懇親会	懇親会
8月22日	ケアプラン勉強会	事例「嫁との関係性が悪く、嫁の支援を受け入れない透析治療を受けている男性の支援」
8月22日	定例部会	情報交換会「主任介護支援専門員更新研修の経験者が語る攻略法について、意見交換、他」
9月19日	運営委員会	前回部会の振り返り、各研修について、次回部会のテーマについて、他
10月24日	ケアプラン勉強会	事例「一家団欒・ご家族に笑顔あふれる日が訪れるのか」
10月24日	ショートステイ部会 合同部会	交流会「合同部会1年の取り組み報告（事例紹介シート、共通申請書の作成）、意見交換、他」
11月22日	運営委員会	前回部会の振り返り、各研修会について、次回部会のテーマについて、他
11月22日	全体研修	全体研修「事例の見立てを考える⑦なぜ物取られ妄想が起きているか？事例の家族背景を考え家族アプローチの方法を考えるー現象の仮説を複数考えるー」
11月22日	懇親会	懇親会
12月13日	主任介護支援専門員 対象研修	主任介護支援専門員対象研修「主任介護支援専門員として気づきを促す質問力」
12月26日	ケアプラン勉強会	事例「体重増加により身体機能の低下、自宅内の衛生面に問題を抱えたケース」
12月26日	定例部会	京都市との懇談「介護予防日常生活支援総合事業とケアマネジメントについて」、情報交換会、他
1月17日	運営委員会	前回部会の振り返り、各研修会について、予算・事業報告について、次回部会のテーマについて、他
2月27日	ケアプラン勉強会	事例「急な機能低下により今までしていたことができなくなった」
2月27日	定例部会	来年度予算・体制について報告、情報交換会「30年度介護報酬改定について、市老協版実務研修実習マニュアルについて、意見交換、他」
3月14日	運営委員会	前回部会の振り返り、浴室等事故防止センサーについて意見交

		換、各研修会について、次回部会のテーマについて、他
--	--	---------------------------

大目標	Ⅲ地域に貢献できる事業所となる
中目標	1) 地域と連携の摂れる事業所となる
行動目標	⑤京都府災害派遣福祉チーム（京都府DWA T）に参加し、地域のつながり作りや、地域や府の防災訓練・福祉避難サポートリーダー養成へ参画する

京都府災害派遣福祉チーム（京都府DWA T）として、各方面の活動に参画できている。DWA Tの活動を通して、地域コミュニティの活動にも参画できている。

- ・DWA Tとして活動を行う。
- ・地域活動として、地域の会議等に参加する。

9月25日	京都府災害派遣福祉チーム平時活動	「京都DWA Tとは」
11月5日	京都府災害派遣福祉チーム平時活動	朱三学区防災訓練
12月26日	京都府災害派遣福祉チーム平時活動	朱三学区民生児童委員会議での研修
2月27日	京都府災害派遣福祉チーム平時活動	高校生向け防災ワークショップ

## 2. まとめ

利用者数は増えており、ある一定の数値を維持しているが、その分業務内容は多岐にわたり多忙を極めていく。各介護支援専門員のスキルアップの為に研鑽も重ねており、地域包括支援センターから困難事例の相談を受けるなど「何でも相談できる事業所」としては認識をいただいていると思われる。

しかし、余力のない状況が続いているため、ケアマネジャー1人に対する負担も大きく、業務維持が困難となる事が懸念され、「いつでも相談できる事業所」としては難しい場面も出てきている。

今後も「いつでも何でも相談できる事業所」として活動を続けるため、業務全体の見直しや増員等を含めた検討が必要と思われる。

## **第4. 収 支 状 況** (別紙 決算書類 参照)

### 1. 単年度収支 (積立金取崩金を除く)

#### (1) 収 入

介護報酬関連 (食費、居住費を含む) 収入は、2 億 7950 万円で、対前年度約 720 万円減少した。平成 30 年度は利用率の向上が課題である。

#### (2) 支 出

##### ア. 人件費支出

人件費支出 (退職金支給の為の金額調整後) は、昨年度と比較すると、約 500 万円増加した。また、処遇改善加算を充当しての定期昇給を行った。人件費率は 74.6%となっている。人件費の削減が喫緊の課題となっている。

##### イ. 事業費支出

事業費支出は、光熱費が年間約 270 万円減少し、事業費合計は前年比約 360 万円減少した。

##### ウ. 事務費支出

事務費支出は、空調工事に伴う追加工事のため前年比約 130 万円増加した。

### 2. 繰越額及び使途計画

平成 28 年度の介護事業における当期資金収支差額は、約 300 万円のマイナスとなった。

資金収支活動収支ベースでの当期末支払資金残高については、過去の繰越も含め法人全体で 2 億 6 千万円程度の繰越を生じている。

繰越金については、将来の人件費や老朽化した施設設備の改修に充当する予定をしている。

## **第5. ま と め**

平成 29 年度の社会福祉法人壬生老人ホームの事業は、概ね以上の通りであった。

各事業とも介護サービスの提供において重大な事故、感染症等は発生せず、重大事故やご家族とのトラブル等もなく、概ね従来とおりの運営を継続できた。

経営においては、資金的な体力は安定しているものの、昨年度に比べ利用率が低迷したため、収入が大幅に減少した。平成 30 年度は利用率の向上に向け努力しなければならない。

サ高住等民間介護施設の乱立により介護職員の確保がより一層厳しくなるものと考えられるため、今後は介護職員の確保に注力を要する。

また、社会福祉法の大幅な改正がおこなわれ、地域貢献により一層の努力が求められており地域との関係を強化することが求められている。